

## 安全データシート

## アジド酢酸エチル

改訂日: 2024-01-18 版番号: 1

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品識別子

製品名 : アジド酢酸エチル

CB番号 : CB7334391

CAS : 637-81-0

## 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : 研究開発用途にのみ使用。医薬品、家庭用品、その他の用途には使用しないでください。

推奨されない用途 : なし

## 会社ID

会社名 : Chemicalbook

住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌國際1号棟

電話 : 010-86108875

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 物理化学的危険性

引火性液体

区分3

## 健康に対する有害性

皮膚腐食性 / 刺激性

区分2

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性

区分2A

## 環境に対する有害性

該当区分なし

## ラベル要素

## 絵表示又はシンボル

GHS07	GHS08

## 注意喚起語

## 警告

### 危険有害性情報

引火性液体および蒸気

強い眼刺激

皮膚刺激

### 注意書き

#### 【安全対策】

熱、火花、裸火、高温体などの着火源から遠ざげること。禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器および受器を接地すること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。火花を発生させない

工具を使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。

取扱い後は手や顔をよく洗うこと。

保護手袋、保護眼鏡を着用すること。

#### 【応急措置】

皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合: 医

師の診断、手当てを受けること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯す

ること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用して

いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続

く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

#### 【保管】

涼しい所/換気の良い場所で保管すること。

#### 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託す

ること。

---

## 3. 組成及び成分情報

化学物質 / 混合物の区別:	: 化学物質
化学名又は一般名:	: アジド酢酸エチル
濃度又は濃度範囲:	: >95.0%(GC)
CAS RN:	: 637-81-0
別名	: Azidoacetic Acid Ethyl Ester
化学式:	: C4H7N3O2
官報公示整理番号 化審法:	: 該当なし

---

## 4. 応急措置

### 吸入した場合:

は、医師の診断、手当てを受けること。

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時

#### **皮膚に付着した場合:**

こと。

洗うこと。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受ける直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。多量の水と石鹼で

#### **目に入った場合:**

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易にはずせる場合は外して洗うこと。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

#### **飲み込んだ場合:**

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。口をすすぐこと。

#### **応急措置をする者の保護:**

救助者はゴム手袋、密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

---

## **5. 火災時の措置**

#### **適切な消火剤:**

粉末、泡、水噴霧、二酸化炭素

#### **使ってはならない消火剤:**

棒状水

#### **火災時の特定危険有害性:**

火災の場合に爆発する危険性あり。爆発の危険性に応じ、離れた距離から消火すること。燃焼や高温により分解し、有毒なヒュームを発生する恐れがあるので注意する。

#### **特有の消火方法:**

消火作業は、風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。関係者以外は安全な場所に退去させる。周辺火災時、容器に水を噴霧して冷却する。安全に対処できるならば着火源を除去すること。

#### **消防を行う者の保護:**

消防作業の際は、必ず保護具を着用する。

---

## **6. 漏出時の措置**

#### **人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:**

特別個人用保護具(自給式呼吸器)を着用する。

る。

漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止す

十分に換気を行う。

漏出場所の風上から作業し、風下の人を退避させる。

#### **環境に対する注意事項:**

製品が排水路に排出されないよう注意する。

#### **封じ込め及び浄化の方法及び機材:**

乾燥砂、不燃性吸収剤などに吸収させて密閉できる容器に回収する。

付着物、回収物などは、関係法規に基づき速やかに処分する。

大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。

#### **二次災害の防止策:**

火花を発生しない安全な用具を使用する。

着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

付近の着火源、高温体などを速やかに取り除く。

---

## **7. 取扱い及び保管上の注意**

### **取扱い**

#### **技術的対策:**

取扱いは換気のよい場所で行う。適切な保護具を着用する。漏れ、あふれ、飛散しないよう注意し、みだりに蒸気を発生させない。熱、火花、裸火、高温体などの着火源から遠ざけること。禁煙。静電気対策を行う。設備などは防爆型を用いる。衝撃、摩擦を避けること。取扱い後は手や顔などをよく洗う。

#### **注意事項:**

できれば、密閉系で取扱う。蒸気やエアゾールが発生する場合には、換気、局所排気を用いる。

#### **安全取扱い注意事項:**

皮膚、眼および衣類との接触を避ける。

### **保管**

#### **適切な保管条件:**

容器を密栓して防爆型冷蔵庫に保管する。転倒や落下して、容器に不慮の衝撃が加わらないよう配慮する。酸化剤などの混触危険物質から離して保管する。

#### **避けるべき保管条件:**

熱

#### **安全な容器包装材料:**

法令の定めるところに従う。

---

## **8. ばく露防止及び保護措置**

### **設備対策:**

密閉化した設備又は局所排気装置を設ける。取扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄用の設備を設ける。

### **管理濃度:**

設定されていない。

### **保護具**

**呼吸用保護具:**

防毒マスク、簡易防毒マスク等。

**手の保護具:**

保護手袋。

**眼、顔面の保護具:**

保護眼鏡。状況に応じ保護面。

**皮膚及び身体の保護具:**

保護衣。状況に応じ、保護長靴。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

透明

液体

情報なし

情報なし

情報なし

164°C

情報なし

情報なし

無色～うすい黄色

下限: 情報なし

上限: 情報なし

情報なし

情報なし

[水] 情報なし

[その他の溶剤] 情報なし

情報なし

情報なし

1.11

情報なし

**形状:**

透明

**色:**

無色～うすい黄色

**臭い:**

情報なし

**融点 / 凝固点:**

情報なし

沸点又は初留点及び

164°C

沸騰範囲:

可燃性:

情報なし

引火点:

情報なし

自然発火点:

情報なし

爆発下限界及び爆発上限界 /

可燃限界

下限:

情報なし

上限:

情報なし

pH:

情報なし

動粘性率:

情報なし

溶解度

[水]

情報なし

[その他の溶剤]

情報なし

オクタノール/水分配係数:

情報なし

密度及び / 又は

1.11

相対密度(g/ml):

相対ガス密度:

情報なし

**粒子特性:**

情報なし

---

## 10. 安定性及び反応性

**反応性:**

情報なし

**化学的安定性:**

適切な条件下においては安定。

**危険有害反応可能性:**

熱、衝撃、摩擦などにより、爆発的に分解することがある。

**避けるべき条件:**

熱、火花、裸火、静電放電、衝撃、摩擦

**混触危険物質:**

酸化剤、金属

**危険有害な分解生成物:**

二酸化炭素、一酸化炭素、窒素酸化物

---

## 11. 有害性情報

**急性毒性:**

情報なし

**皮膚腐食性 / 刺激性:**

情報なし

眼に対する重篤な損傷性

情報なし

**/ 刺激性:**

**生殖細胞変異原性:**

情報なし

**発がん性:**

**IARC =**

情報なし

**NTP =**

情報なし

**生殖毒性:**

情報なし

**特定標的臓器毒性**

情報なし 情報なし

**-短回暴露:**

**-反復暴露:**

**誤えん有害性:**

情報なし

---

## 12. 環境影響情報

**生態毒性:**

**魚類:**

情報なし

**甲殻類:**

情報なし

**藻類:**

情報なし

**残留性・分解性:**

情報なし

**生体蓄積性(BCF):**

情報なし

**土壤中の移動性**

**オクノール水分配係数:**

情報なし

**土壤吸着係数(Koc):**

情報なし

**ヘソリ-定数(PaM 3/mol):**

情報なし

**オゾン層への有害性:**

情報なし

---

## 13. 廃棄上の注意

処理施設がないなどの理由で廃棄できない場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

空容器を処分する時は、内容物を完全に除去した後に行う。

処理に際しては、充分な知識を有した専門家に相談した後、危険性に充分配慮する。

一度に、大量に焼却すると爆発の危険性がある。

却炉で少量ずつ充分注意しながら焼却する。

焼却処理する場合には、可燃性溶剤に溶解または混合した後、アフターバーナー及びスクラバーを備えた焼

地方条例や国内規制に従う。

適切な保護具を着用する。

---

## 14. 輸送上の注意

国連番号:

1993

品名(国連輸送名):

Flammable liquid, n.o.s.

国連分類:

クラス3(引火性液体)

容器等級:

III

輸送の特定の安全対策及び条件:

積み込み、荷崩れの防止を確実に行い、法令の定めるところに従う。

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように

---

## 15. 適用法令

消防法:

第4類 第二石油類 危険等級III 非水溶性

安衛法(施行令別表第一):

危険物 四 引火性のもの

船舶安全法:

危規則危険物告示 別表第1 引火性液体

---

## 16. その他情報

略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアズトラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

## 参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法（化審法）<https://www.env.go.jp>

【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）<https://www.chemicoco.env.go.jp>

【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIPI）<https://www.nite.go.jp/>

【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>

pageID=0&request\_locale=en

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

## 免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。